

米国における世代間交流プログラムについて

- 特にフィラデルフィア市の場合 -

○ 草野 篤子 (信州大学)

【目的】 急速な経済及び社会構造の変動の中で、人口の高齢化、少子化が進んでいる。その中で伝統的地域社会や家族ネットワーク結合も、機能しなくなっている。したがって、新たな人と人との結びつきを意識的に創り出していく必要性に迫られている。都市化・核家族化が早く進んでいる米国における世代間交流プログラムの内容を考察することによって、日本における今後の家族、地域社会における人と人との結びつきを考えてみたい。

【方法】 米国ペンシルヴェニア州フィラデルフィア市における世代間交流プログラムについて、特に1997年8月から1998年1月まで実際にそのプログラム活動に参加し、観察した内容を分析し総合することによって、日本における現在までの世代間交流プログラムの特色と、これからの必要性、現実性を明らかにする。

【結果】 フィラデルフィア市の世代間学習センターでは、この間、16プログラムが実際に行われていた。それらは「年齢を越えて」(Across Ages)、経験知識軍団 (Experience Corps)、家族の友人 (Family Friends)、満員劇団 (Full Circle Theater Troupe)、おばあちゃんの子供 (Grandma's Kids)、プロジェクト・オープン (Opportunities for Productivity, Empowerment and Nurturing)、中休み (Time Out) などである。高齢者は、経験と知識の宝庫であり、多くの若い世代を援助し、支えることができると同時に、若い世代も高齢者から文化や伝統を引き継ぐ一方で、新しい科学技術や知識を与えることができる。これらのプログラムの多くは、日本でも適用可能と考えられる。